

グループウェア・サイトと学習支援

Consideration of Groupware Service on the Web for CAI

藤本 孝一郎*

FUJIMOTO, Ko-ichiro

概要：短期大学の授業支援を目的に Web 上のグループウェアの利用可能性を検討した。試行の結果、授業でのメッセージ交換による活用に効果があることが示唆された。

1. はじめに

近年、Web 技術の進展や競争による各種のポータルサイトの充実がめざましい。短期大学の過去の授業実践では、Web ツールとしてポータルサイトの機能を活用した共同作業支援に一定の効果があった。ところで短期大学での専門科目には、経営各分野に関する幅広い専門用語が頻出する授業がある。このような授業では学習の前に、専門用語の確認に時間がとられることが多い。そこで、いわゆるグループウェア・サービス(注1)を提供しているサイトの各種機能を授業支援に利用することを考えた。

2. 目的と準備

2.1 目的

専門用語が多用される講義科目の学習支援を目的として、試行を通じたポータルサイトによるグループウェア機能の活用手法を検討した。教授者・受講者間でのメッセージ交換を核とし、授業参加者の問題意識の喚起にも資する。Web 上の各種ポータルサイトを調査の上、Google の提供するサービスを利用した。

2.2 調査と準備

2.2.1 グループウェア

グループウェア・サービスを提供する代表的なポータルサイトのいくつかを Web 上で調査した。データ容量と反応速度の比較的良好な、無料で公開されている Google サイトの「Google グループ」を選んだ。メールアドレスなどを登録すれば無料で利用できる。サイトには一種のメンバーリスト・サービス（登録メンバーへのメール転送）とともに、ファイル共有（投稿・共同編集可能）、ディスカッション（メールのような投稿方法）機能がある。次に Google グループの TOP ページを示す。(図1)

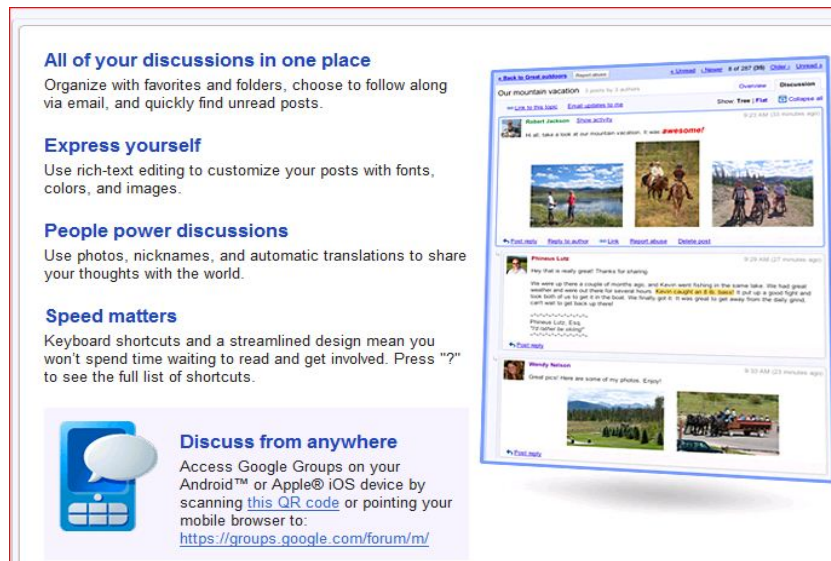


図 1. 「Google グループ (TOP ページ)」 (Google)

2.2.2 準備

本年度、前期で、初期登録設定しサンプルデータ入力など試験的に運用した。後期で、城西大学のコンピュータ教室（坂戸キャンパス.PC 20 台,OS:WindowsVISTA）で、城西短期大学の講義で試行実施した。サイト利用が可能な授業は、少人数を対象とし、経営財務論の後期一コマをとりあげ、クラスで了解を得た。（図2）

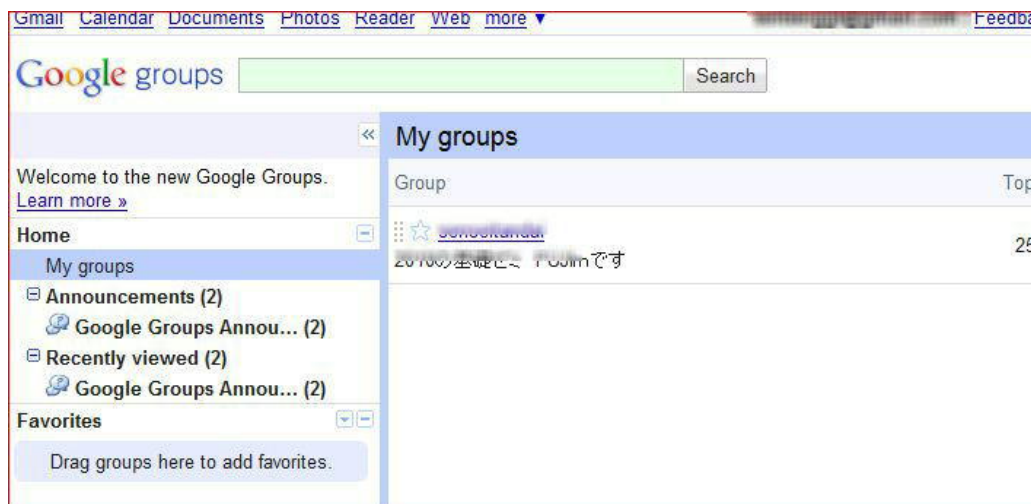


図 2. 「授業グループサイト・ホーム（設定後）」 (Google グループ)

3. 実践

3.1 試行

後期授業の学習進行とともに、3回をサイト利用指導を実施した（なお翌年からはグループページの利用はできなかった）。サイトの設定は招待制で非公開とし、メールアドレス登録により利用が可能になる。利用指導は、学習者に各人別サイト形成の指導とともに、Web サイトの紹介、

メール設定, ログイン方法, ファイル・メール投稿, ファイル共有などの指導した。時間的な制限や, 各人ごとのソフト操作能力のばらつき等を考慮し, 適宜, 操作指導・説明を進めた。

3.2 結果

教授者のテーマページとしてグループ・サイトを事前に形成し, 学習内容に関する質問をスタートとしサイト上に示す。同時に各人サイトのメッセージページに示される。学習者が自身のサイトから回答・質問送信する。(図2)

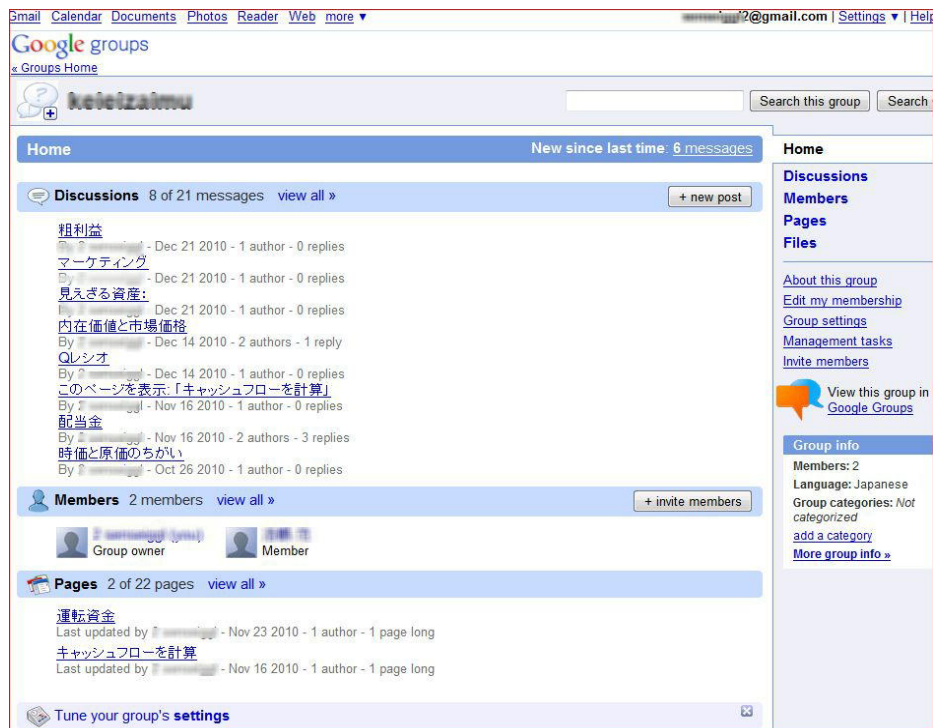


図2. 「授業ホーム (ディスカッション一覧を含むトップページ)」(Google グループ)

4. 考察

4.1 学習支援に関して

今回対象とした授業(経営財務論)では, 例年, 簿記・会計および経営学の基礎知識の習得を前提に, 企業価値分析の基礎理論の理解を主眼としている。特に, 証券分析や財務に関する幅広い専門用語が頻出する。講義は統計計算公式など解説に多く時間をさく必要があるが, これら論点理解の前に, 関係専門用語の確認に時間がとられることが多い。

グループサイトのディスカッションページは, メッセージ交換の過程を教授者・学習者の各サイトに表示する。授業進行に並行して論点理解の質問・回答に利用することができた。サイト上に論点ページ(一種のフォルダ)を設けることで, 従来の事前, 事後学習の結果に, 各授業内容とともに質疑が一種のログ(Log)として記録され論点ごとのページが形成される。教授者・学習者にとって進度の区切りごとの見返しやまとめに活用できた。(図3)

またファイル共有機能を活用し授業進行とともに教授者・学習者によるファイル編集が可能で, 一種の

添削がリアルタイムに実施できた。さらに Google グループ・サービスではサイト保存容量が大きいいため、ファイル共有が比較的自由に利用できた。なお翌年に、バージョンアップによりページ機能の一部サービスが提供されなくなり不都合が生じた。そのため数回、読み取り専用で利用した。



図 3. 「論点一覧(メッセージページ)」(Google グループ)

4.2 発展

本年度は少人数のクラスで試みなかったが、さらに学習者同士でのメッセージ交換による討議ページ形成によって、コミュニケーションを図ることができる。さらに学習者グループ相互でのコミュニケーションにも活用できる。また学習者のメッセージ交換過程をみて、学習の進展状況を確認することもできると考えた。

5. おわりに

今回得られた知見により、本学の教育情報システムとの接合について探求したい。さらに学習支援の観点から Google での、バズ (buzz: 昨年度、報告した Twitter と類似のミニブログサービス) と、業メッセージ交換との連携活用を検討したい。

【注】

(注 1) 本稿では、「グループウェア」(Groupware) を、情報共有やコミュニケーションなどの ICT (情報通信技術) を利用し、グループによる協調作業を支援するソフトウェアの総称としている。なお CAI (computer-aided instruction) はコンピューター支援による教育システム・手法を示す。

【参考文献】

- [1] 総務省編「情報通信白書平成 22 年版」総務省ホームページ (2010 年)
- [2] 藤本孝一郎「女子短大教育での Web 共有教材製作と協同作業」城西情報科学研究 (2001 年)
- [3] 立川, 飯島他著「オフィス変革のためのグループウェア」日刊工業新聞社 (2009 年) 他
(www) 「Google」 <http://www.google.co.jp/>..
「総務省」 <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/>

(Received Mar. 21, 2011)